

「第2回福祉を語る会」

2004.10.13 18:30～21:00 場所:サンルート

第一回目は交流、懇親を主としたものでしたが、今回、第2回の参加者は48名。ご参加の皆様ありがとうございました。

第1部は広島県福祉保健部の新木部長さまのミニ講演でした。新木部長さまにはミニ講演をお引き受け頂きありがとうございました。

講演概要 内容は

- 1 障害者施策を取り巻く環境
- 2 障害者施策の推進
- 3 広島県の障害者施策



1 障害者施策を取り巻く環境

国政で、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針」が示され、「人間力」強化のための戦略的検討として障害者の雇用・就業、自立を支援すると位置づけている。

次に、三位一体の改革で国庫補助金の削減（3億円）、税源委譲、地方交付税改革が示されている。更に、地方分権の推進が進められ、広島県においては市町村の合併で29市町へと市町村合併が進展している。

県の権限も市町村に委譲し、推進計画が年度内には策定され、地方の裁量権がアップする。

県財政については、H16年度から5年間の財政健全化計画を年度内に策定する。現在350億円の赤字であり、財政健全化計画については更に前倒しして実施。

介護保険については、2000.4 発足しており、2005.4 が制度見直しの時期にあたり、明年がその見直しの年である。

2 障害者施策の推進

厚生労働省が 04.10.12 障害保健福祉施策改革のグランドデザイン案を社会保障審議会障害者部会に示したことを、即、最も最新のホットニュースを紹介下さいました。

- ・ 障害者サービス法（仮称）で三障害の一本化 来年の通常国会に新法案と関連法提出予定
 - ・ 市町村中心の体制
 - ・ 自立支援システムへの転換
 - ・ ケアマネジメントの制度化
 - ・ 制度の持続可能性の確保
 - ・ 新たな障害保健福祉施策体系を構築するための政策群
- 障害保健福祉サービス体系の再編
ライフステージに応じたサービス提供
良質な精神医療の効果的な提供
- 支援費制度については、在宅サービスの伸びが顕著（H14：H15 = 100：160）
サービスの地域格差が顕著
財源不足（H16年度 250億円）

3 広島県の障害者施策

障害者プラン

H16年度の主要政策の紹介

- ・ 精神障害者退院促進支援事業
- ・ 障害者ITサポートセンター設置事業
- ・ 自閉症・発達障害支援センター運営事業 の紹介

障害保健福祉施策改革が示され、抜本改革がスタートするようです。

講演の中で、医療体制を例にあげられ、一次、二次、三次と構造化をはかり症状によって転院等、対応が必要となる。言葉を換えると、医療では必要性から、相互に水平、垂直の補完など、地域でのシステム化が進んだ。

福祉の領域ではこの機能分化と連携協力がかならずしもなされていない。現在、福祉の転換期、変革期であり、地域で自立してQOLの向上をはかり、生活できるように、誰がどういうサービスをうけたらよいか・・・このためには、医療の先例を参考として、協力体制＝地域ネットワークの構築が必要になるうとの指摘がありました。

今後の福祉のあり方に示唆に富むものであり、地域の福祉力向上のためにも、地域における保健・福祉のネットワークの構築が今後ますます重要であろうと痛感したものです。

第2部 懇親会

名刺交換、情報交換等と6:30にスタートし、お開きは21:00でした。
懇親会のようにすです。



上野眞樹様、福場黎子（むぎ施設長）様を迎え、第3回「福祉を語る会」 2005.2.3 : 料亭久里川

2005年の年明け、2月3日に料亭久里川にて、第三回目の「福祉を語る会」が開催され、17:30より中江亜紀恵氏・桧垣聡子氏・松井小百合氏が受付を担当下さり、69名の参加でした。



『受付風景』

全体司会は出路千恵氏（消費生活アドバイザー）により、1階の洋室にて、上野眞樹様のヴァイオリン演奏です。

会場からのリクエストに応じて、リクエストG線上のアリア・ユーモレスク・チャルダッシュ・冬のソナタ等を弾いて下さり、語りと会場からの質問に

Q1「ヴァイオリンの起源は？」

A1「中央アジアの遊牧民が馬のしっぽをこすって音をだしたのが起源」

Q2「広島音楽の水準は？」

A2「ドイツにいる時、指揮者からほめにほめられた。オーケストラは指揮者・会場・観客等で一体となり更にすばらしい演奏となる、音楽に上下はありません」



『演奏風景』

演奏者と聴くものがとても間近で、普段聴いてみたいことが次々とできました。

今回、上野先生は全くのボランティアで参加下さり、こころに響く、やさしいヴァイオリンの音色を届けて下さり、音楽のすばらしさにふれることができました。

「もっと聴きたかったね」の声がありました。

ありがとうございました。

上野先生のオフィシャルサイトです。<http://ueno.ratsbane.net/>

「肢体障害を持ちながら生きて」

みんなのしごとば

福祉工房 むぎ 福場 黎子様

広島市に生まれ、府中町の「むつみ福祉園」から「むぎ」へと、64年の生きてこられた歩みと、今の日々を語られました。



ケーキを焼く日々

2000年の春、中学校を卒業したばかりの3名をはじめ、最年長者は23歳のメンバー6家族で、無認可の共同作業所「みんなのしごとば 福祉工房むぎ」をオープンさせ、現在は20数種類のケーキを焼く日々。

よく歩けていたのに

「1歳半まではよく歩けていたのですが・・・」と母の口癖でした。1941年、ポリオウイルスによる突然の発熱でした。

父は出征し、戦後、ソ連に抑留

終戦の翌年、母は幼子3人を連れて広島に引き揚げた。

障害をもって生きることの悩み

姿形にとらわれて

母娘のきずなと確執

道を拓くむつみ園の日々

薬剤師となる道を歩み、県立広島病院、広島大学歯学部勤務し、広島市身体障害者福祉協会への参加の中で、自らのみならず、障害をもって生きるということを考え、こども時代のそだちが重要とのおもいで、「ことばの治療教室」への道を求めた。

愛媛大学教育学部言語障害児教育養成課程に進み、修了後「むつみ福祉園」に1975年4月に職員となり、30年近い年月を困難に遭遇しながら、多くの人々に支えられ、保護者と職員が一体となって乗り切ってきた。

振り返って今、思うこと

- ・ 障害がある子ども達のためにと、人生の軌道を変えたが実際にはこども達やお母さん達に育てられた30年であり充実した歳月であった。
- ・ 私の育った時代と今は異なる。支援体制のない中では孤立無援の中で、かたくなな重いで育てた母は「黎子ちゃん、あなたは頭は悪くないのだからね!」と、その母の一途さが私を縛った。
- ・ 現在は、30余年前と比較すると、世の中は良いほうに本当に変わってきた。本人の会、親の会等もでき、かかわりの中で親自身も変わっていける。
- ・ いつ障害となっても、人間として幸せに生きていくことが重要
- ・ 障害があっても、なくても同じ人間として尊重され、毎日を平穏に穏やかに生きていきますように!

「障害成年の自立と親の自立」鈴木 勉編 2004年・クリエイツかもがわにて出版

「ケーキを焼く日々」でP142～158に

執筆されています。ご一読下さい。

「むぎ」のご連絡は右記です。

【連絡先】

みんなのしごとば 福祉工房 むぎ

安芸郡府中町浜田 1-5-1-101 284-8318

19：40～場所を移し、2階で懇談会です。

2月3日ということで、席番号23番の方が乾杯！（広島大学 巖淵先生）



【 乾杯です！ 】



【懇談会風景 1】



【懇談会風景 2】

「福祉を語る会」は

肩書き抜きで、この地域を、福祉を元気にしたい人

広く福祉にかかわる、普段あえない人に、気軽に一度に会える

手軽な参加費で、参加が可能

今までに、3回、開催されました。世話人によりますボランティアで運営されています。

「第3回 福祉を語る会」ご参加、ありがとうございました。